

平成 27 年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

2 江戸後半～明治初期の  
中国・四国旅日記(二)  
— 石見国・出雲国記行 2 (終) —



世お原の道徳一丁丁方山とスルもの  
まろくし修めて  
七福うらやま

一丁斗和に城下も三葉町を元とて  
よる花町を元とてち馬

の光善流のつた三丁九丁ありて  
川舟のあし  
かきつ何可か自代

公の給のつ又三葉町を元とて  
まろくし修めて  
花のつとて

の光のまより  
つたのつた  
まろくし修めて  
城天

まろくし修めて  
まろくし修めて  
まろくし修めて  
まろくし修めて

花のつとて  
まろくし修めて  
まろくし修めて  
まろくし修めて

仲し  
まろくし修めて  
まろくし修めて  
まろくし修めて

田のつとて  
まろくし修めて  
まろくし修めて  
まろくし修めて

田のつとて  
まろくし修めて  
まろくし修めて  
まろくし修めて

田のつとて  
まろくし修めて  
まろくし修めて  
まろくし修めて

田のつとて  
まろくし修めて  
まろくし修めて  
まろくし修めて

田のつとて  
まろくし修めて  
まろくし修めて  
まろくし修めて

田のつとて  
まろくし修めて  
まろくし修めて  
まろくし修めて

田のつとて  
まろくし修めて  
まろくし修めて  
まろくし修めて

一七七〇年... 終て... 此より... 又... 日... 月... 又...

... 山... 取... 良... 又...

... 又... 別... 又...

... 又... 又... 又...

... 又... 又... 又...

... 又... 又... 又...

... 又... 又... 又...

一 十八日 心王銘講開し 牛心社より山ノ下相いりて先山ヲまかり平中ノ世ニ人ト云人蒸音

升来りし事ニ人ト云く 地志ノ書ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

吉作水のの字取て東山ノ下ノ水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

可レ北ノ水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

又水ト云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く 又ニ下ノ中ニ云く

一 元日 <sup>アキアエ</sup> 下 湖の末より水色とよし交て西人西谷と振す  
 湯谷 孫記の末より水色とよし交て西人西谷と振す  
 又湯谷を子所侍。

五月一日 川内 下 湖の末より水色とよし交て西人西谷と振す  
 湯谷 孫記の末より水色とよし交て西人西谷と振す  
 又湯谷を子所侍。

湯谷 孫記の末より水色とよし交て西人西谷と振す  
 又湯谷を子所侍。

湯谷 孫記の末より水色とよし交て西人西谷と振す  
 又湯谷を子所侍。

湯谷 孫記の末より水色とよし交て西人西谷と振す  
 又湯谷を子所侍。

一 此の... 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百





強出たり高の自故より好むべし是の類は其類の如し

三階の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し其類の如し

一五、六、五、り、錫、年、あ、れ、え、し、る、事、も、し、る、事、も、あ、ら、ま、り、な、ら、ず、

か、り、下、り、し、て、四、り、し、て、谷、川、の、り、は、た、た、た、と、山、を、ま、り、ま、り、と、

あ、り、す、ま、り、の、街、山、の、に、行、く、つ、た、か、つ、た、か、つ、た、か、つ、た、か、つ、た、

三、り、の、際、下、り、の、山、の、東、四、り、の、方、向、

一、六、日、山、の、り、ま、り、行、は、す、山、の、に、ま、り、し、と、壁、の、方、向、山、を、ま、り、と、

り、ま、り、と、四、り、の、山、の、南、西、の、山、の、東、四、り、の、方、向、

二、り、山、の、り、ま、り、山、の、り、ま、り、山、の、東、四、り、の、方、向、

一、七、日、山、の、り、ま、り、と、あ、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、

や、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、

山、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、

山、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、

山、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、の、り、ま、り、

中ノ川と云ふは、  
尾瀬川の  
源流ありて、  
山根の徑に於て、  
谷を以て

東ノ川と云ふは、  
尾瀬川の  
源流ありて、  
山根の徑に於て、  
谷を以て

西ノ川と云ふは、  
尾瀬川の  
源流ありて、  
山根の徑に於て、  
谷を以て

東ノ川と云ふは、  
尾瀬川の  
源流ありて、  
山根の徑に於て、  
谷を以て

西ノ川と云ふは、  
尾瀬川の  
源流ありて、  
山根の徑に於て、  
谷を以て

東ノ川と云ふは、  
尾瀬川の  
源流ありて、  
山根の徑に於て、  
谷を以て

西ノ川と云ふは、  
尾瀬川の  
源流ありて、  
山根の徑に於て、  
谷を以て

江ノ川  
水谷  
尾瀬  
山根  
谷

一 五の揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

勝山物産の多しを修し 揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

揚子江の河口にありて三ノ川に合流す

後を托氣ツケにして、ツケのふたに己の川を托す

又イヒル水落ツケとよきを托すツケのふたに己の川を托す

此水のかまのふたに己の川を托す

と云ふは、ツケのふたに己の川を托す

後と云ふは、ツケのふたに己の川を托す

後と云ふは、ツケのふたに己の川を托す

後と云ふは、ツケのふたに己の川を托す

後と云ふは、ツケのふたに己の川を托す

後と云ふは、ツケのふたに己の川を托す

と云ふは、此の山に於ては、  
又物言ふ事あるは、  
又伸・中流の紙屋の  
今つて其のツリ口を  
と云ふは、  
又物言ふ事あるは、  
又伸・中流の紙屋の  
今つて其のツリ口を

又物言ふ事あるは、  
又伸・中流の紙屋の  
今つて其のツリ口を

又伸・中流の紙屋の  
今つて其のツリ口を

今つて其のツリ口を

と云ふは、  
又物言ふ事あるは、  
又伸・中流の紙屋の  
今つて其のツリ口を

又物言ふ事あるは、  
又伸・中流の紙屋の  
今つて其のツリ口を

又伸・中流の紙屋の  
今つて其のツリ口を

今つて其のツリ口を

と云ふは、  
又物言ふ事あるは、  
又伸・中流の紙屋の  
今つて其のツリ口を

又物言ふ事あるは、  
又伸・中流の紙屋の  
今つて其のツリ口を

又伸・中流の紙屋の  
今つて其のツリ口を

今つて其のツリ口を

押角の事